

麻しん風しん混合ワクチンの予防接種を受ける方へ ※任意接種用

<ワクチンの効果と副反応>

麻しん風しん混合ワクチンは、1回の接種で、麻しん風しんに対する免疫を獲得することができます。副反応としてはワクチンの接種直後から数日中に発疹、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱などがみられることがあります。全身症状として、接種5～14日後に1～3日間のだるさ、不機嫌、発熱、発疹などがみられることがあります。非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫など）、血小板減少性紫斑病（接種後数日から3週ごろに紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血など）急性散在性脳脊髄炎（接種後数日から2週間程度に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など）、脳炎・脳症、けいれんがみられることがあります。

<予防接種を受けるときの注意>

- ①麻しん風しん混合ワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。
- ②受ける前日は入浴（またはシャワー）をして体を清潔にしましょう。
- ③当日は体調をよく観察して、体を清潔にしましょう。
- ④清潔な着衣をつけましょう。
- ⑤予診票は医師への大切な情報です。正確に記入するようにしましょう。
- ⑦予防接種を受ける方が女性の場合、あらかじめ約1カ月間は避妊しましょう。

<予防接種を受けることができない人>

- ①明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③過去に麻しん風しん混合ワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人（他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に医師にその旨を伝え、判断を仰いでください）
- ④妊娠している人及び妊娠の可能性のある人
- ⑤医師より免疫不全などの診断を受けた人または、免疫抑制を起こす治療を受けている人

<予防接種を受ける前に医師と相談しなくてはならない人>

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある人
- ②かぜなどのひきはじめと思われる人
- ③前回の予防接種の時に2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状のある人
- ④薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- ⑤今までにけいれんを起こしたことがある人
- ⑥過去に免疫不全と診断されたことがある人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑦麻しん風しん混合ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人

<予防接種を受けたあとの注意>

- ①接種後30分間は病院にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②接種後2～3週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう、ただし、はげしい運動や大量の飲酒は避けましょう
- ⑤高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ⑥接種後2カ月間は妊娠をしないよう注意してください。

<健康被害救済について>

接種による死亡および障がい(1級～3級)などの健康被害が発生した場合は、全国町村会総合賠償補償保険による救済対象となります。また、接種による死亡、障がい(1級・2級)入院を必要とする程度の医療が発生した場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による「医薬品副作用被害救済制度」に基づく救済対象となります。

※発生した健康被害と予防接種と因果関係が認められた場合

<その他>

町が助成する、19歳～49歳の方に対する麻しん・風しん混合ワクチン接種は、任意の予防接種で、助成は町の行政措置として行います。

接種については、本人(保護者)の選択により決定してください。